

会議名	第3回港区立郷土歴史館指定管理者候補者選考委員会
開催日時	平成29年9月29日（金曜日） 午後5時30分から8時00分まで
開催場所	区役所7階 教育委員会室
委員	（出席者）安藤委員長、新宮副委員長、須賀委員、若林委員、藤原委員
事務局	佐々木図書・文化財課長 文化財係 土井係長、高山主事、桑原主事、川上主事 新郷土資料館整備担当 大江係長
会議次第	1 開会 2 審議事項 第二次審査について 3 その他 4 閉会
配付資料	[配布資料] 1 第一次審査集計結果 2 第二次審査採点表
会議の結果及び主要な発言	
D委員	<p>【開会】</p> <p>【配布資料確認】</p> <p>【A事業者プレゼンテーション開始】</p> <p>提案書に書いてある伝統芸能やコンサートなどを、週1回実施するのは実現可能性について不安があるがいかがか。また、事業が多く集客に目が向きすぎている感があるが、どうなのか。</p>
A事業者	<p>博物館以外にも文化会館、生涯学習施設、公民館など多数運営している。特に生涯学習施設では1日で10、20の講座などを開催している実績がある。ロビーコンサートも月1回などで開催している。手間をかけず、簡易設営でいかに事業展開できるかを考えている。今回の施設は施設保護の意味でも会場の作りこみは難しいと考えている。また、制作会社を通すことなく落語会などと直接連携し低価格で呼ぶことでコストを抑え多く開催できるようにしている。</p>
C委員	<p>同じく、実現可能性というところで、3点伺う。語学堪能職員を受付などに置くことは可能か？アテンダント職員の展示研修の充実ができるのか？カフェ事業について、</p>

	<p>八芳園とフードコーディネーターや大使館の料理人の名前など出ているが、うまく連携して回せるのか？</p>
A事業者	<p>語学の堪能職員ですが、我々すでにアベノハルカス、スカイツリー等語学堪能職員を配置、対応している実績があります。同じ時給ですと苦しいので提出書類の時給も上げて試算しております。また、語学の研修メニューも多数用意しています。展示研修について、瑞穂町郷土資料館では学芸員業務は町直営でやっており、私どもは学芸員の常勤職員とパートスタッフを配置している。パートスタッフも常設展示の説明ができるようにと仕様があったため、町の協力も受けて我々の学芸員が展示解説の研修を行っている。また、狭山市立博物館は常設展示にボランティアを活用しており、歴史に強いAさん、民俗が強いBさんなど、もともと詳しい方に勉強してもらい対応している。川崎市は山下清展などのときには、山下清専門の学芸員に来てもらい、二日間、展示ガイドを教えてもらって、パートスタッフ総勢 20 人いるが、全員しっかりと研修を行いガイドに対応した。同様のことを本施設でも行いたいと思っている。八芳園の件に関しては、通常メニューは八芳園が考え、特別展やイベントの時にフードコーディネーターなどにはメニューをプロデュースしてもらうことにしている。八芳園には通常メニューとして有機野菜を多く使った健康志向のメニューを出してもらう。縄文クッキーなどの開発が計画に書かれていたが、フードコーディネーターなどにはそういうものの開発もお願いすることとしている。私どもで総括し連携して運営する。</p>
副委員長	<p>3名の学芸員を配置とあるが、この方の力量などどういう方を想定しているか伺いたい。</p>
D委員	<p>経験豊富な学芸員とプレゼンにあっただどの程度の方が補助で入るのか。私も伺いたい。</p>
A事業者	<p>副業務責任者1名と歴史館担当チーフともう1名の計3名を学芸員と考えています。週に1回自主事業をやると説明したが、ある程度のスキルがないと週1回の事業展開は難しい。年齢構成的には副業務責任者はある程度の年齢をおき、あと中盤、若い者と考えている。我々では他の館でも同じような年齢構成で展開させている。今回もそう考えている。川崎市では15人、我々の学芸員がおり展示も含めすべてやっているし、その他で運営している施設も含め多数の学芸員がいて、展示、造作、解説業務すべてに経験がある。そういった場所で経験を積んだ学芸員を年齢構成や専門分野のバランスを考えて配置し、アテンダントの育成と展示造作等の区の学芸業務支援を行っていく。</p>
副委員長	<p>ロケーションの撮影とありますが、メディアへ売込みもやってもらえるのか。</p>
A事業者	<p>川崎市は月に何度もロケ撮影があります。グループ会社でイベント会社をやっているのので、メディアとのパイプがあります。川崎市をやったことでもっとつながりが強くなった。博物館、美術館に特化した取材とか、ロケの話も多くもらっている。そういう意味では私たちは今回選ばれたら、こういう施設もやっています、と歴史館を売り込むことは可能だと考えています。我々の実績からのスケールメリットも活かした</p>

	<p>い。施設の知名度を上げることで来館につなげたい。しかし、施設の本来業務や近隣へ迷惑をかけないなどにも配慮しながら、知名度アップ、来館者数増を目指す考えである。</p>
E委員	<p>専任の営業配置とあるが、他の施設の事例で効果があったらお話を聞きたい。</p>
A事業者	<p>川崎市は3名、営業を配置しています。8月50件、9月34件メディアに取り上げてもらった。メディアとパイプを作ると、定期的に話ができる。情報誌などを積極的に配るとコストがかかるが、メディアリリースはお金がかからない。私どもは週1回のちょっとしたイベントを数多く行っているが、公共施設でこんなことをしているんだと知られる機会が増す、多くのイベントを実施することも取り上げてもらいやすい環境となっていると理解している。大型の特別展だと、テレビキー局や新聞なども来る。営業職員を使って積極的に仕掛けた結果である。</p>
委員長	<p>利用者同士が活性化するコミュニケーション、展示等総合計画では交流・情報交換というような事業展開でこれまでの実績を教えてください。</p>
A事業者	<p>ママカフェというものをやっています。子育て世代という孤立しがちなところをターゲットにした事業展開で、交流の機会を増やしています。ボランティアの活用として、ボランティアさんを一区民と考え、そこにネタを提供して、ボランティアさんの能力向上という意味も込めた生涯学習を行ってもらったという事例もあります。</p>
委員長	<p>自主的な企画をどのように受け止めて、この館の事業に活用していくのかは重要です。欧米の博物館では当たり前だが、これが今後日本でも博物館のあり方になっていく。そのあたりは豊富なノウハウに期待したい。建物が港区指定文化財、その建物を活かす、アピールしていくという話があったが、具体的に建物の魅力はどこにあると思いますか。活用で難しさを感じているところはありますか。</p>
A事業者	<p>文化財指定されるので、カフェなど仕様変更が難しく工夫が必要と思っている。建物には建築としての歴史、文化、背景があると思う。それを利用する時代で活用の仕方が変わる。過去公衆衛生院だったものが、博物館でありコミュニティの場となろうとしている。建物に寄り添うのか、建物を違う使い方をしていくのか、誰のための建物であるか。時代が変われば利用者が変わる。そういう思いで携わっており、歴史ある建物に魅力を感じています。</p> <p>【A事業者プレゼンテーション・ヒアリング終了】</p> <p>【B事業者プレゼンテーション開始】</p>
D委員	<p>花と緑とホスピタリティで歴史館を盛り立てるというコンセプトが明確に打ち出されており、本施設の一生涯のストーリーという話も出たが、このあたりについて詳しく聞きたい。</p>

B事業者	ここからスタートするので、開館までに基礎データを取り、例えば、温湿度の設定や、運転時間の確定など、それをスケジュールリングすることをもってストーリーという言葉としている。維持管理という部分について一生涯のストーリーと説明しています。
D委員	この公募に応募したいと思った、一番の強い動機、運営したいと思った動機をお聞かせください。
B事業者	私どもは維持管理をやっている企業と、花を活かした施設運営の企業がジョイントを組み応募しています。お互いの良いところを発揮して、今回の施設を区民の方に使いやすい施設をアピールできるということで申請しました。花と緑が施設を彩るものと紹介しましたが、植物は昔から人々の暮らしに必要なもので、食べたり、建物にしたり、楽器にしたり植物も文化の一つと考えている。学芸員が施設にいるのでサポートするものとして植物は使える思いがあり、応募しました。
D委員	学芸の業務をサポートしつつ、事業を行うとしているが、これについてはどのような方々が、どのような体制、頻度で行っていくのか。
B事業者	運営責任者と企画学芸支援担当を配置します。学芸員がいままでやっている講座が年10回程度と聞いている。単発事業と併せて年30回ほどプラスの講座を考えている。
C委員	花と緑ということを前面に打ち出されている。歴史館そのものの学芸的なことは専任の学芸員に任せて、御社はサポートしていくということ、館の花と緑のイメージづくりに専念という理解でよろしいですか。しかし一方でアテンダント教育の説明があった、そのあたりの学芸支援業務の具体的内容についてお尋ねしたい。
B事業者	郷土歴史館で展示されているものをどう魅力的に見せるか、学芸員、利用者をつなぐ役と考えている。人と人をつなぐ仲介役という立ち位置で提案しています。歴史的建造物、展示物をみせることが一番重要な業務だと十分理解している。その中で、私たち2社の強みが花と緑がポイントであるということ。全部の事業に花と緑を使うわけではなく展示を差し置いてということもないことを理解していただきたい。学芸員のサポートだけでなく、私たちが前面に出てその魅力を伝えることも大切な業務と理解している。まずは、学芸員に係員向けレクチャー資料を作成いただき、学芸員よりレクチャーを受け、係員がお客様にご説明できるようになる研修を行っていただきたい。
C委員	別の観点ですが、外国人向けの対応の事柄が今一つ伝わってこなかった。旅行者、住民含めてどのように対応するか聞かせてください。また、資料の中では、周辺学校との連携をうたっているが、プレゼンでは触れていなかったなので、対応の実現性についてお聞かせ願いたい。
B事業者	住んでいる方、観光客の方、視点を分けつつ、ベースは英語できちんと展示物の説明ができる。また、説明するものをお渡しする、これを基本の業務ととらえている。観光客はいつ来ても楽しめるプログラム、英語以外の言語のクイズラリー、変身レンタ

	<p>ルセットや江戸時代などの写真スポットも考えている。住んでいる外国人にはボランティアをしてもらうなどを考えている。学校との連携では学校プログラムを考えている。小学生目線でなにが楽しいか、一般とは分けたガイドツアーや、また、夏休みの宿題に活用できるようなブックを用意、何回か歴史館に通ってもらい完成すると夏休みの宿題提出にできるようなものを用意する。子供ボランティア、職業体験、文化歴史に興味を持つような学校プログラムを考えている。外国人対応については、現在も指定管理者として入っている施設で、区内大使館と連携が盛んに行われています。今回の施設においても関係性を拡大していきたい。</p>
副委員長	<p>今まで、歴史や文化に関する博物館など専門的な部分を担う指定管理や委託事業の実績はどれくらいありますか。</p>
B事業者	<p>埼玉県入間市の博物館はやっております。単発では大恐竜展とかはチケット販売やアテンドの実績はあります。</p>
副委員長	<p>展示や企画も含まれた委託ですか。</p>
B事業者	<p>そこは含まれていません。世界遺産などに選ばれた、新原・奴山地域のある福岡県福津市の歴史資料館は学芸員と連携している実績はあります。</p>
E委員	<p>フォトロケーションとして、例えば結婚記念日とかがありますが、他で管理している施設で、どのくらい利用があるか。</p>
B事業者	<p>福岡貴賓館では3日に1回は予約が入るくらい人気フォトスポットとなっている。神戸のラインの館は神戸市と相談し、一般利用の妨げにならないようにとの指示があり件数は少ないが、条件が合えば年数回撮影がある。</p>
委員長	<p>花と緑がアピールポイントになると受け止めているところがある。歴史的建造物と場所、博物館を取り巻く花と緑のコンセプトはどのような工夫をすべきと考えているか。教えてください。</p>
B事業者	<p>花屋としては、水を使う花が絶対ではない。歴史的建造物なので、高度な造花を多様化しながら、当時のアレンジメントを展示して、施設があった頃の人々の楽しんでいたアレンジメント、ディスプレイも一つの方法。博物館的発想では、花卉を借りて展示する、企画展と連携した展示、大使館と連携しその国の花を使った装飾展示などが考えられる。</p>
委員長	<p>博物館という場所は、博物館を目的にするだけでは集客力が限られる側面があるため、近隣を取り巻いて、複合的につなげてアピールした実績はありますか。</p>
B事業者	<p>横浜のいくつかの文化財で共同講座を行い、市内の博物館など毎回場所を変えてやるという連続講座の実績はあります。歩きながら、季節の花、樹齢何百年の木もといった文化財をみるような連続講座です。区内公園の指定管理者をしておりますが、施設</p>

を出たワークショップも考えており、地域との連携を強化していきたいと考えている。さらに、近隣との連携の視点の中で、神戸では地域の方と連携して、オリーブアカデミーという団体を作り、我々の館長が事務局となり、地域巡りをはぐくむ実績もあります。さかのぼりますが、博物館の花のあり方、展示スペース、パブリックスペースの分け方が重要と考えている。パブリックスペースは交流の場で力を入れていきたいが、展示スペースではメインが展示物なので、妨げにならないことが大事と心得ている。

【B事業者プレゼンテーション・ヒアリング終了】

【事務局集計 点数発表】

委員長

それでは、委員の皆さんに採点の講評をいただきたいと思います。A事業者の方が博物館施設、指定管理業務や様々な自主事業の展開の実績が豊富であり、事業展開において、具体性もあり魅力ある安定した館運営に期待が持てた。また、他施設の実績に基づき来館者増を目指す積極的な提案をしており、展示等総合計画に掲げている区其自然、歴史、文化をより多くの方に知ってもらうため、区が指定管理者に期待する役割を的確に理解していることから、総合点においてAが高くなった。

B事業者は、建物の維持管理に対する知識は評価できるが、歴史系施設運営のノウハウが蓄積されているとは言えず、展示造作に関する言及はないため不安があり、評価が低い。

副委員長

差がついたところは、郷土歴史館の規模は当然港区として初めてになるので、学芸業務や博物館業務に専門的知識があるところでないかと厳しいだろうと考えた。A事業者は実績があり、具体的な提案となっているところや3名の学芸員資格者を配置することにより、展示造作などの支援を実施することは、魅力のある特別展の開催が可能となると評価した。B事業者は、提案自体はユニークであったが、サポートを中心とした提案となっており無難な内容にまとまっており、もう少し攻める姿勢が欲しかった。また、総括責任者のプレゼンに熱意が感じられず、かつ質疑の中での発言がほとんどなかったところは不安があったため、マイナス評価としました。A事業者は代表企業の代表取締役も質問に的確に答えており、トップも本事業をしっかりと理解して発言しているところが評価できた。

C委員

プレゼンと資料を統合した結果、Aの方が本指定管理業務に求める展示造作支援をよく理解しており安心できるとともに、提案が優れているところを評価した。また、集客事業の提案が過剰かと思われたが、実績に基づく提案であることが確認でき安心できた。健康志向のメニュー提供を近隣の有名飲食施設が提供するとの提案は、地域に根差した運営という面で評価できるとともに、特別メニューの開発にかかる人材との連携・役割分担が明確に説明されており期待できると評価した。

B事業者は学芸員業務については区にお預けして我々はイメージづくりをしますよ、と徹底したところは一つの方法かなと思ったが、明日博物館の業務をやるとなると、もっと展示造作の支援など具体的なことが示されるべきと思う。また、花と緑というテーマを歴史系博物館に持ってくるのは面白く興味が持てると思うが、学芸員や営業

	<p>といった全体の職員の配置を考えると、しっかりと専門的な仕事をやっていけるのはA事業者であると評価しました。</p>
D委員	<p>私は事業への意欲、指定管理者としての資質は両社とも申し分なかった。自らの強みを提案しており、実現性が高いことからB事業者の方に得点を高くつけた。コンセプトが一貫しているところや複合施設の利用者にも言及しているところが建物の特徴を理解していると感じられ評価できた。学芸業務においては、花と緑に引っ張られ過ぎていたが、歴史館のイメージ作りにあった提案をしていた。学芸員は資格を持っているだけではだめで、コミュニケーションをとるとか、より興味を引き出す内容を提案していく、その資質があることが大事。それをより多く感じたのがB事業者だったので、よりそっちに多くつけました。</p>
E委員	<p>B事業者は、建物の特徴を理解した提案となっていた。しかし、これほどの歴史ある建物、規模を加味していく中で、体制的な部分、来館者数の目標達成に向けて前向きな提案があった点で、A事業者の方が、評価が高い。プレゼンテーションについては、連携の部分ではA事業者の方が質疑に対し事業者間の連携が取れており、一体的に業務を実施していける安心感があり、区との連携もうまくいくような期待が持てる。B事業者はプレゼンテーションでは、回答者が明確になっておらず、かつ別の質問の時に前の回答が後から付け加えられることがあるなど、共同事業体の企業間における連携が機能しておらず、区との連携にも不安を残した。また、事業者Bは職員体制が手薄であり、この規模の博物館運営を確実にこなせるのか不安であった。以上、総合するとA事業者の方が評価が高くなった。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。それでは、集計結果のとおり、本委員会として事業者Aを港区立郷土歴史館指定管理者候補者として決定いたします。</p> <p>(全員了承)</p>